

宜 基 渉 第 32 号  
平成 29 年 8 月 7 日

外務省沖縄担当大使  
川田 司 殿

宜野湾市長 佐喜眞 淳

**MV-22 オスプレイのオーストラリアにおける訓練中の  
事故について（抗議・要請）**

平成 29 年 8 月 5 日、米軍普天間基地所属の MV-22 オスプレイが、オーストラリア東海岸で訓練中に事故を起こし、捜索救難中であるとの報告を沖縄防衛局より受けました。

MV-22 オスプレイについては、昨年 12 月の不時着水事故や、今年 6 月に 2 度 にわたり予防着陸を行うなどのトラブルが相次いでおり、住民を巻き込む大事故に繋がるのではないかと、市民にも大きな衝撃と不安が広がっております。

住宅地に囲まれた普天間飛行場周辺では、全ての事故が住民の生命・財産に直結しうることから、航空機事故に関してはこれまでも抗議し、事故原因究明及び再発防止の徹底を求めてまいりましたが、その内容も示されないまま、事故が繰り返される現状に強い憤りを禁じ得ません。

今回の MV-22 オスプレイのオーストラリアにおける訓練中の事故に抗議し、徹底した事故原因の究明及び公表を求めます。

また、すでに防衛大臣が米側に求めていると承知しておりますが、安全が確認されるまでの間の MV-22 オスプレイの飛行停止を改めて強く求め、具体的な再発防止策を速やかに策定し、公表するよう併せて要求いたします。

さらに、問題の抜本的解決のためにも、市民の強い願いである普天間飛行場の一日も早い閉鎖・返還と、普天間飛行場負担軽減推進会議での継続的な議論を通し 5 年以内運用停止をはじめとする危険性除去及び基地負担軽減を早急に実現するよう併せて強く要請いたします。